

生きる力をはぐくむ指導の工夫

～教科等の指導における基礎学力の向上を目指す「言語活動の充実」の取組と読み、書き、そろばんプロジェクト推進～



南区 大谷場中学校 研究主任 **瀧澤 英基**

1 はじめに

本校の学校教育目標は「心豊かでたくましく進んで学ぶ生徒を育成する」である。その実現に向けて、平成21年度から研究主題となっている「生きる力をはぐくむ指導の工夫」に取り組み、昨年度委嘱を受けた「読み、書き、そろばんプロジェクト推進」と重ね合わせて言語活動の充実に取り組んできた。

2 研究の概要

(1)プロジェクトの理念を共通理解する。

市教育委員会の指導主事を招いて、本プロジェクト推進について、市としての基本的な考え方や方向性を伝達していただき、職員の共通理解を図った。

(2)本校生徒の実態から、課題を絞り、仮説を立てる。

①本校生徒の実態

学習面

学力調査（国・市）の数値結果は、市の平均をかなり上回るが、その反面よい生徒にまともになってしまう傾向にあり、自分の考えをもてない、意見を主張できない、または表現しようとしなない、間違いを極端に恐れる等の傾向が見られる。従って話し合い活動において、相手に賛成したり反対したりせず、自分の意見(感想)を述べるにとどまってしまうため、

活動に深みをもてないことがある。また、論理的に相手に伝えることも苦手である。

家庭・人間関係面

- ・生活的には安定している家庭が多い。
- ・人間関係やテストなどのプレッシャーに弱い一面がある。

②研究の仮説

各教科において、基礎的・基本的な知識・技能の習得を重視するとともに、言語活動を充実させることによって、生徒のより高い思考力、判断力、表現力等をはぐくむことができる。

(3) 研究組織の編成

- ①企画運営部：研修全体の方向性を立案し、研修実践の中心となる。
- ②言語環境研究部：掲示物や学校放送等、校内の言語環境を整えることを中心に活動する。
- ③資料統計分析部：生徒、教員に向けてのアンケートを作成し、集計・分析を行う。
- ④記録部：研修記録、写真の整理を行う。

3 研究の内容

(1)本校における言語活動の基本を共通理解する。（生徒の実態から）

言語活動を通して身に付けたい力とは、
1 話す力 2 聞く力 3 書く力
4 読む力 5 考える力 と考えた。

(2)各教科における「言語活動の充実」
各教科で「言語活動の充実」をどのように位置付けるか、またどんな活動例があるかを具体的に検討し、共通理解を図る。

- ①体験から感じ取ったことを表現する。
- ②事実を正確に理解し伝える。
- ③定義・法則などを解釈し、説明したり活用したりする。
- ④情報の分析と選択、論述を行う。
- ⑤課題解決のため、計画、実践、評価、改善（課題解決）を行う。
- ⑥お互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる。

※「言語活動」は国語以外の各教科にとっては、目標に迫るための手段の一つにすぎないことを再確認する。

(3) 言語環境の整備：教職員を中心に

- ・正しい言語で話し、正確に丁寧に書く。
- ・教師と生徒、生徒相互の話し言葉が適切に交わされるような環境づくりから人間関係を築く。(写真右：毎朝担任の思いを読む)
- ・朝読書や読み聞かせによる、豊かな言語に触れる機会をつくる。
- ・校内の掲示物、生徒に配付する印刷物等の整備をする。(写真左、中「素敵な言葉」)



(4) 授業実践と検証

- ・平成22年度
 - ① 言語活動の基幹教科である国語科の教員全員による授業公開。
 - ② 数学科、英語科による検証授業の実践。
- ・平成23年度
 - ① 全教員が来年度完全実施される学習指導要領を踏まえた学習指導案を作成し、研究（公開）授業（プロジェクト推進発表含む）の実践。
 - ② 教頭による多くの公開授業の実践。

(5) まとめ・・・言語活動の充実が見られる授業とは？

- 確かな理解がよりよい表現につながる。
 - 表現する（しようとする）ことが、思考力、確かな理解につながる。
- ※理解・思考・表現の相乗効果となる。

- ①生徒が主体的に授業に取り組み、深く考える時間があり、それを表現したくなるような手だてがある授業。
- ②生徒同士が互いに考えをもち合わせて関わり合い、意見交換や交流などをおして考えを高め合っている授業。
- ③振り返り、評価、修正をしながら、生徒自身が今後の学習に前向きになる授業。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・新学習指導要領に示された言語活動について全教員で共通理解を図ったこと。
- ・各教科で言語活動例を考案したこと。
- ◎数多くの公開・研究授業を通じた指導案作成と検証を重ねたこと。
- ・課題研究を組織的に行ったこと。

(2) 課題

- ・発達段階や個に応じた言語活動を取り入れた指導の工夫。
- ◎言語活動例の開拓と年間計画の作成。
- ・思考力・判断力・表現力をより高める指導と工夫。
- ・生徒の変容が分かる評価方法の研究。
- ◎言語活動の充実と生活向上との関連性。

我々の課題追究と実践が、生徒の学力向上や成長と結びつくことが実感できた。今後も生徒の実態を基本に据えた実のある実践に努めていきたい。